

## 病害虫情報 No. 6

茨城県病害虫防除所

## ネギベと病の防除を徹底しましょう！

## [ 現在の状況 ]

6 月下旬現在，ネギベと病の発生が平年より多い（表 1）。また，病害虫防除員の情報によると，県西（坂東市）の夏ネギほ場で，べと病が多く発生している。園芸研究所（笠間市）におけるべと病の発生も平年より多い（表 1）。

表 1 ネギベと病の発生状況

地域 (調査地点数)	発病度		発生地点率 (%)	
	本年	平年	本年	平年
県北 (2)	22.0	10.9	100	71
県南 (2)	19.0	1.6	100	40
県西 (5)	20.6	1.0	100	36
全県 (9)	20.6	2.6	100	41
園芸研究所	35.0	3.0		

## [ 防除対策 ]

ネギベと病は，今後，気温の上昇とともに発生は抑制される。しかし梅雨期にあたり，発病を助長する気象（低温，多雨）が続く場合には，本病の発病，進展に注意し，薬剤散布を行う（表 2 参照）。なお本病はほ場全体に進展すると，なかなか防除効果があがりにくい傾向がある。

薬剤散布後は防除効果を確認し，効果が得られない場合は，他系統の薬剤を使用する等，ローテーション散布を心がける。

薬剤散布は展着剤を加用し，丁寧に行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。

発病の激しい株は，伝染源となるので，出来るだけ処分する。

表 2 ネギベと病に登録のある主な薬剤（平成 19 年 6 月 6 日現在）

薬剤名	収穫前日数-	有効成分-	系統名
	本剤の使用回数	有効成分の総使用回数	
アミスター-20 フロアブル	3-4	アゾキシストロビン-4	ストロビルリン
アリエッティ水和剤	3-3	ホセチル-3	有機リン
ランマンフロアブル	3-4	シアゾファミド-4	

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・回数・注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また，薬剤散布の際は，周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意してください。